

VI 資料

1 新・沖縄21世紀農林水産業振興計画(抜粋)八重山圏域

(1) 農林水産業の特徴

八重山圏域の農業について、令和2年における県全体に占める総農家数の割合が6%、耕地面積の割合が21%であり、さとうきび、水稻、オクラ、かぼちゃ等の野菜、パインアップル、マンゴー等の果樹、ヘリコニア、レッドジンジャー等の熱帯花き類、かんしょ、薬用作物等の生産、肉用牛を主とする畜産が行われている。

農業の品目別拠点産地については、かぼちゃ、オクラ、パインアップル(生食用)、ヘリコニア、レッドジンジャー、薬用作物(ボタンボウフウ)、肉用牛の11産地が拠点産地として認定されており、生産振興に取り組んでいる。

本圏域では、国営かんがい排水事業石垣島地区が着工し、既存水源(5ダム)を総合運用することで農業用水の再編を行い、新たに石垣島北部及び西部の農地への農業用水の確保をはじめ、農業用ダムを活用したかんがい施設や区画整理及び農地防風施設等各種の生産基盤の整備が展開されている。

本圏域の森林面積は約3万7千haと県全体の約35%となっており、リュウキュウマツなどの森林資源が充実している。また、適切な森林整備による防風・防潮や木材生産などの多面的な機能の発揮が期待されている。

水産業については、一本釣り漁業、潜水器漁業、パヤオ漁業、マグロはえ縄漁業等が行われており、モズクやハタ類等の養殖も生産を伸ばしている。

また、自然に恵まれ、グリーン・ツーリズム、森林ツーリズム、ブルー・ツーリズムなどの体験・滞在型観光による地域活性化が期待される地域である。

項目	数量	県対比(%)	備考
総農家数	899戸	6.1	2020年農林業センサス (令和2年)
販売農家数	838戸	7.9	
主業農家数	332戸	9.2	
基幹的農業従事者数	994人	7.5	
耕地面積	7,771ha	21.0	耕地面積調査 (令和2年)
田	468ha	57.3	
畑	7,296ha	20.2	
林野面積	41,787ha	36.1	2020年農林業センサス (令和2年)
漁業経営体数	267経営体	10.1	2018年漁業センサス (平成30年)

(2) 振興方向

ア 農業

農業については、さとうきび、パインアップル、水稻、かんしょの生産振興を図るとともに、かぼちゃ、オクラ、ゴーヤー等の野菜、レッドジンジャーやヘリコニア等の花き、マンゴー等の果樹の振興を推進する。また、畜産、野菜、花き、果樹等の農林水産物のブランド化に取り組むとともに、環境への負荷低減を図るなど自然環境の保全と産業振興が両立する地域を形成する。さらに、八重山圏域のさとうきび農家の所得安定及び製糖事業者の経営安定化に向けた支援を行うとともに、含蜜糖生産については、黒糖ブランドの確立、販路開拓等による需要拡大を図る。また、かんがい施設や区画整理等の生産基盤の整備を推進するとともに、既設施設の再編・更新を図り、農業用水の有効活用等を促進する。あわせて、台風等の気象災害から農作物被害を防ぐための農業施設の整備や防風林整備等を図る。

本圏域における赤土等流出量は県全体の4分の1を占めており、特に農地からの流出が95%を占めていることから、農地を重点的に、新たな取組を含め総合的な対策を推進する。

畜産については、子牛の拠点産地化、肥育牛のブランド化の推進、放牧地高度利用の推進等により、供給基地としての産地形成を推進するとともに、畜産の環境対策や飼料自給率の向上に努める。また、特定家畜伝染病の侵入及びまん延防止のため、関係機関連携による防疫演習や防疫資材の備蓄など危機管理体制の強化を推進する。

新規就農者の育成については、市町村等関係機関と情報共有しつつ、学習機会の提供や経営・技術指導等により支援する。農林水産業を取り巻く研究課題については、生産現場や普及指導機関等との連携を図り、課題解決と迅速な普及を推進する。

また、農山漁村地域において、豊かな自然環境や独自の伝統文化、パインアップル等の地域農産物を活用したグリーン・ツーリズム等による交流・体験の推進、滞在拠点の形成や観光産業との連携強化、農林水産業の多面的機能の維持・発揮を図る。

さらに、地域特産物の出荷コストの負担軽減等による域外出荷の拡大を図る。

(ア) さとうきび

生産性及び品質を向上させるために、優良品種の増殖・普及や適期栽培管理、株出栽培体系の推進、有機物の施用や緑肥作物の栽培、防風・防潮林の普及啓発等を図るとともに、肉用牛との複合化や葉たばこ・野菜等との輪作体系を推進していく。

また、さとうきび経営安定対策に対応した担い手を育成するため、農地所有適格法人、農作業の受託組織等生産組織を育成・強化するとともに、「さとうきび増産計画」等に基づき、生産者をはじめ、関係者が一体となった増産対策により、生産の増大に向け取り組む。

さらに、製糖工場の安定操業のため、長雨による原料確保等の対策に取り組む。

(イ) 野菜

定時・定量・定品質の安定生産を図ることを基本に、台風等の気象災害に強い栽培施設や防風・防虫等ネット栽培施設、農業用機械の導入を促進し、かぼちゃ、オクラ、ゴーヤー、さやいんげん等の安定生産に努めるとともに、土づくり、防風対策、販売対策の強化により生産拡大を図り、拠点産地の形成・育成を推進する。

また、農業団体等と連携し、流通・販売体制の強化を図る。

(ウ) パインアップル

パインアップル栽培に適した酸性の国頭マーヅ土壤の地域では、生食用品種を中心に生産が行われおり、観光産業へも大きく貢献している。

今後とも生食用優良品種の導入及び開花処理技術の組合せによる出荷期間の拡大、農業用機械等の導入等により生産性及び商品価値の向上を図るとともに、拠点産地協議会等の育成・強化を図る。

また、農業団体等と連携し、流通・販売体制の強化を図る。

(エ) 熱帯果樹

マンゴーについては、優良品種の導入・普及、栽培技術の向上、気候変動等に対応したハウスの導入などを図る。観光産業へも大きく貢献しているマンゴー、パパイヤ、パッションフルーツ等の生産性及び品質向上を目指し、拠点産地協議会等の育成・強化に努める。

また、農業団体等と連携し、流通・販売体制の強化を図る。

(オ) 花き

台風等の気象災害に強い栽培施設等の整備、新技術の普及、栽培技術の高位平準化を推進し、レッドジンジャー、ヘリコニア等熱帯花き類の拠点産地として、周年安定出荷体制の確立、ブランド化の推進に努めるとともに、切り葉等の生産拡大を図り、流通・販売対策の強化を推進する。

(カ) 水稲

栽培技術及び病虫害防除技術の向上等により安定的な生産を図る。さらに、消費者ニーズに対応して環境に配慮した米づくりを推進するとともに、生産コストの低減を図り、所得の向上に努める。

(キ) 葉たばこ

生産性及び品質の向上や作業の省力化に努め、安定的な生産を図る。

(ク) かんしょ

優良品種の普及と病虫害の防除対策を強化し、生産性及び品質の向上を図り、拠点産地の体制強化・育成に努めるとともに、農業団体等と連携し、流通・販売体制の強化を推進する。

(ケ) 畜産

肉用牛については、ブランド化の推進、自給飼料基盤の整備、優良種畜の導入・育成、放牧地高度利用の推進及び飼養衛生管理技術の改善等により、供給基地としての産地形成を推進する。さらに、生産基盤強化のため畜舎の整備等を行う。

また、畜産の環境対策と地域資源の有効利用を図るため家畜排せつ物処理施設の整備を推進するとともに、耕畜連携による資源循環型農業を促進する。あわせて、地力の維持増進を図り、飼料自給率の向上に努める。

イ 森林・林業

森林の持つ多面的な機能を持続的に発揮させるため、保安林の適切な管理や治山施設及び防風・防潮林の整備、並びに森林整備事業を推進する。

また、リュウキュウマツなどの森林資源の活用を進めるとともに、森林の利用と保全の調和を図りつつ、森林環境教育等の多様な利活用を図る。

さらに、森林・林業に精通したガイドの養成等を図り、森林ツーリズムを推進する。

(7) 林産物

リュウキュウマツ等の計画的な生産及び収穫伐採体制を確立するため、効率的な伐採技術の確立、及び流通・販売体制を強化する。

ウ 水産業

水産業については、保護区の設定等によるマチ類、フェフキダイ類、ハタ類等の近海魚介類の資源管理に努めるとともに、モズクやハタ類等のつくり育てる漁業の推進によるブランド化を図る。

また、流通加工施設等の整備により流通機能の強化を図るとともに、漁港・漁場等の生産基盤施設の維持更新を推進する。

さらに、良好な漁場環境の保全及び漁業秩序の維持を図るとともに、尖閣諸島周辺水域、日台漁業取決め水域及びその他広域な周辺水域において、漁業者の安全操業体制の確保に取り組む。

(7) 海面漁業

持続的な生産活動が維持されるよう、研究機関と連携し、保護区設定等によるマチ類、フェフキダイ類、ハタ類等の資源管理を推進する。また、マグロ類やソデイカ、シャコガイ類等の生産拡大を図るため、流通・販売対策の取組を支援する。さらに、海洋保護区の設定とブルー・ツーリズムとの連携による新たな海洋・観光・水産資源の創出に向けた取組を推進する。

(イ) 海面養殖業

登野城魚類養殖場を拠点とするハタ類の魚類養殖やクルマエビ、モズク、シャコガイ類等の生産拡大を図るため、漁業者に対する技術指導や魚病防疫体制を整備するとともに、流通の機能強化を図る。

エ 周辺離島

竹富町及び与那国町の含蜜糖生産については、黒糖ブランドの確立、販路開拓等による需要拡大を図る。

西表島においては、さとうきび、パインアップル、熱帯果樹、かぼちゃ、水稻等を中心に生産の振興を図るとともに、肉用牛との経営の複合化を促進する。また、波照間島では、さとうきびを中心に肉用牛、モチキビ等を振興するとともに、小浜島では、さとうきびを中心に肉用牛等、黒島では、肉用牛の振興を図る。

与那国町については、さとうきび、水稻、肉用牛、薬用作物の生産を振興し、経営の複合化を促進する。

(重点振興品目)

【耕 種】	さとうきび、水稻、葉たばこ、かぼちゃ、オクラ、ゴーヤー、さやいんげん、パインアップル（生食用）、マンゴー、レットジンジャー、ヘリコニア、切り葉、かんしょ、薬用作物類
【畜 産】	肉用牛
【林 業】	木材
【水産業】	クルマエビ、モズク、マグロ類、カジキ類、ソデイカ、ヤイトハタ、シャコガイ類、マチ類、フェフキダイ類、スジアラ、シロクラベラ、ハタ類

資料：新・沖縄21世紀農林水産業振興計画（令和4年12月策定）より抜粋

2 認定及び表彰関係

(1) 「おきなわ食材の店」登録制度

沖縄県では、沖縄県産食材を積極的に活用した料理の提供を通して、県民のみなさんや観光客のみなさんに県産食材の魅力を発信していただける県内飲食店を「おきなわ食材の店」として登録しています。

八重山管内では、令和5年12月までに計48店舗が登録されています。

No	店名	住所
1	美味食彩花HANA	石垣市大浜466-15 2F
2	八重山酒家 楽	石垣市大浜116-2
3	海人居酒屋 源 平得店	石垣市平得175-3
4	The BREAKFAST HOTEL PORTO石垣島	石垣市登野城86 リゾート琉球株式会社
5	さよこの店	石垣市登野城170番地
6	ピストロスマイル	石垣市登野城624 赤嶺マンション101
7	海鮮館 どてっぺん	石垣市八島町2-4
8	石垣島ダイニング 有頂天	石垣市美崎町1 福宝堂ビル2F
9	日本料理郷土料理ひるぎ	石垣市美崎町4-9
10	やいま家庭料理さつき	石垣市美崎町7-16
11	海人居酒屋 なつや	石垣市美崎町10-17
12	石垣牛と海鮮の店 こてっぺん	石垣市美崎町12-7
13	BAR NOBU	石垣市美崎町12-8 TOMOビル1F
14	海人居酒屋 源 美崎店	石垣市美崎町16-10
15	郷土料理 琉球の爺(おやし)	石垣市浜崎町2-1-7
16	炭火焼肉 たけさん亭	石垣市浜崎町2-2-4
17	海人割烹 げん	石垣市新栄町25-5
18	石垣牛焼肉専門店 いしなぎ屋	石垣市大川43番地
19	辺銀食堂	石垣市大川199-1
20	漁師の居酒屋 一魚一会(いちぎょいちえ)	石垣市大川216 ピュアネスイシダ1F
21	石垣牛専門 焼肉金城 石垣島大川店	石垣市大川278
22	Hau tree gelato (ハウ トゥリー ジェラート)	石垣市大川281
23	ゆくい処 海人めし	石垣市大川286 源ビル1F
24	海人居酒屋 源 総本店	石垣市大川286 源ビル2F
25	島料理居酒屋 あだん亭	石垣市大川430 東1F
26	焼肉中華 はるさー	石垣市大川559 アートホテル石垣島
27	うさぎや 石垣本店	石垣市石垣1-1
28	沖縄居酒屋 石垣島	石垣市石垣14-3
29	石垣牛と海鮮の店 てっぺん	石垣市石垣15-4 ワコーレKAMIJI 1F
30	石垣島ベーカリー&スペインレストラン ハイビスキャット	石垣市石垣257-3
31	Shiraho 家 Café (しらほ・いえカフェ)	石垣市白保42-3
32	森の賢者	石垣市新川49-2
33	和琉ダイニング みふね	石垣市新川1129-2
34	かぶさ食堂	石垣市新川418-1 コンテナハウスB
35	石垣島ミルミル本舗	石垣市新川1583-74
36	はりはりはうす	石垣市新川1627
37	ファミリー居酒屋 源	石垣市新川730(あやばにポウル内)
38	海人居酒屋 源丸	石垣市新川2373-13
39	マリティーム	石垣市新川2459-1 ホテルロイヤルマリンパレス石垣島
40	旬家 ばんちゃん	石垣市白保13-1
41	石垣島ミルミル本舗 石垣空港店	石垣市白保1960-104-1 (石垣空港内)
42	ガーデンバナ	石垣市崎枝239-14
43	はいむるぶし ぬちぐすいブッフェ	竹富町字小浜2930 ホテルはいむるぶし
44	農家民宿 マナ	竹富町古見202
45	ペンション星の砂	竹富町字上原289-1
46	西表シーサイドカフェ	竹富町字上原546-3
47	琉夏	竹富町字上原10-357
48	ピアガーデン 国境(ハテ)	与那国町 字与那国22-4 3F

「おきなわ食材の店」登録基準

- 1 年間を通して、提供しているメニューの半数以上が地産地消メニューであること。
- 2 地産地消メニューとは、県産食材を半数以上使用したメニューであること。
- 3 使用している県産食材について、積極的に情報提供を行っていること。



(2) 第46回沖縄県さとうきび競作会表彰

第46回沖縄県さとうきび競作会において、八重山郡内からは次呂久栄重氏（石垣市大浜）、當銘悟氏（石垣市石垣）、与那覇寛長氏（石垣市新川）の3氏が表彰された。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、沖縄本島での表彰式が中止となったことから9月22日にJAおきなわ八重山支店で八重山地区受賞者の伝達表彰式が行われ、次呂久氏と与那覇氏が出席され表彰を受けた。

農家の部で奨励農家として受賞した次呂久栄重氏は、植付前の心土破碎による排水性の改善、植付直後の土壌処理剤による雑草防除、その後も日々の管理による除草を徹底している。またホースを使ったかん水作業を行っている等、意欲的にさとうきび栽培に取り組んでいることが評価された。

多量生産の部で農家の部沖縄県第1位を受賞した當銘悟氏は、大規模の経営面積を3作型及び苗生産用として計画的に管理している。機械化の推進による適期の肥培管理や全ほ場で土壌処理剤を活用した雑草予防を行うなど、経営面積約19haを効率的に管理することで約1,124 tを生産し、県第1位に輝いた。

特別優良事例の部で受賞した与那覇寛長氏は、さとうきび栽培歴60年余りで、いち早くトラクターや植付機等の農業機械を導入した。これらを活用して近隣農家の作業受託にも取り組み、地域全体のさとうきび生産の機械化・省力化に貢献された。また長年、地域の原料委員としてさとうきび生産を支えるており、製糖関係者からの信頼も厚く農家の模範となっていること等が評価された。



次呂久栄重氏(前列左から4番目)、与那覇寛長氏(前列左から5番目)

(3) 令和4年度沖縄県農林漁業賞 受賞

令和4年度「沖縄県農林漁業賞」は6部門で8個人、1集団が受賞し、八重山管内においては農産部門で水稻・さとうきび生産者の長浜栄包氏（石垣市大浜）が受賞した。

長浜栄包氏は、66年間にわたり水稻・さとうきび栽培を行っており、その高い栽培技術によって、毎年安定して高単収・高品質の生産物を出荷している。また、農業研究センターへ試験圃場、JAへ採種圃の提供を行っており、徹底した維持管理に努めている。

組織活動では、地区のさとうきび原料委員を36年間務めており、地域のさとうきび生産を支えてきた。八重山地区水稻生産部会が3支部（石垣、大浜、西表）に分かれていた頃には、大浜支部長を4年間務め、組織活動を牽引してきた。また、平成26年の支部統合の際には部会長として中心的に尽力された。現在は、水稻生産部会の相談役として後進への栽培技術の継承を図っていることから、長浜氏の地域の模範となる長年の活動や取組姿勢が評価され、この度受賞することとなった。



受賞者一同



長浜栄包氏(中央)

(4) JA八重山地区ゴーヤー生産部会全員が「エコファーマー」に認定

令和4年10月21日付でJA八重山地区営農振興センターゴーヤー生産部会（大泊良克部会長・部会員28名）全員が「エコファーマー」に認定された。

エコファーマーとは「土づくり」「減化学肥料」「減化学合成農薬」の3つの技術を一体的に行うことにより、環境に優しい農業に取り組む農業者の愛称で、化学肥料と化学合成農薬を慣行より3割低減する5年計画を県知事が認定する制度である。

今後、部会員が同計画にもとづいて生産したゴーヤーの出荷箱や包装等に「エコファーマーマーク」を付して販売する事が可能となり、これにより消費者に対して農産物の安全・安心をアピールする。

部会長は「部会全体で今後も農薬や化学肥料を減らす工夫をしていくと同時に、消費者へのPRについても積極的に取組みたい」と抱負を述べている。



エコファーマー認定式



エコファーマーマーク

(5) 「おきなわ花と食のフェスティバル2023」関係表彰

令和5年1月21～22日、那覇市奥武山公園にて「おきなわ花と食のフェスティバル」が4年ぶりに通常開催された。第30回野菜品評会においては八重山からゴーヤー6点、さやいんげん2点、かぼちゃ1点が出品され、石垣市の東内原辰雄氏がゴーヤー（品種：沖ロマン）で金賞（沖縄県青果物流通協議会会長賞）を受賞した。氏は22日に執り行われた授賞式に出席し「大変嬉しい。今後もよいゴーヤーを作っていきたい」と抱負を述べた。その他、第35回花き品評会では石垣市の宮城順一氏がレッドジンジャーで銀賞、ティーリーフで銅賞を受賞した。



東内原辰雄氏



ゴーヤー
(品種:沖ロマン)



レッドジンジャー



ティーリーフ

(6) 令和4年度青年農業者会議 プロジェクト発表最優秀賞受賞

11月9日に那覇市の沖縄県男女共同参画センターていするにて開催された令和4年度沖縄県青年農業者会議のプロジェクト発表の部において、石垣島ファーマーズクラブの仲里憲治氏が最優秀賞を獲得し、令和5年度に大分県で開催される九州・沖縄地区青年農業者会議へ沖縄県代表として出場することが決まった。

仲里氏は「人もオクラも根っこが大事～苗移植でグッバイ立ち枯れ～」と題して発表。オクラの立ち枯れ対策について、苗移植や根鉢保護移植を実施し、立ち枯れの軽減を実現しただけでなく、経済性の評価も出来たことで、普及性、実用性のある取り組みである点が審査員に評価された。

また意見発表の部では、石垣島ファーマーズクラブの東内原航太会長が「会長になって」と題し、各地区の青年クラブ員に向けて八重山とのより一層の交流を呼びかけ会場を和ませた。



仲里憲治氏の舞台発表



仲里憲治氏(左)・東内原航太氏(右)

(7) 令和4年度沖縄総合事務局「ディスカバー農産漁村の宝」選定

農林水産省は、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより、地域の活性化及び所得向上に取り組んでいる優良な事例を「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として全国より選定している。

今回、審査の結果、独自の特徴ある取組が評価され、八重山郡内から初めて「南の島々から八重山の味つたえ隊(以下、味つたえ隊)」が令和4年度沖縄総合事務局「ディスカバー農山漁村の宝」に選定された。今後同局において、特設Webサイト等で活動を紹介する他、メディア媒体での記事掲載など、広く発信することにより他地域への展開を図ることとしている。

味つたえ隊は、八重山地域を拠点に地域農産物の加工販売に取組む10名の女性起業家で構成された農産加工グループで、八重山の食材を活用した商品の開発や販売、食育活動等を通して八重山の味を内外に広く伝えることを目的に活動しており、今後一層の活躍が期待される。



選定証授与式にて記念撮影

(8) 第12回全国和牛能力共進会第2区(若雌の1) 下地牧場の「しもじ51」が優秀賞4席を受賞

10月6～10日に鹿児島県で第12回全国和牛能力共進会が開催され、下地牧場の「しもじ51」が八重山から25年ぶりの沖縄県代表牛に選抜され、第2区(若雌の1)において沖縄県過去最高成績の優秀賞4席を受賞した。

11月に行われた母牛登録審査では、これまで県内の最高得点を2点以上更新する89.7点を獲得した。



(9) 第48回沖縄県畜産共進会枝肉部門 ヤイマ・ブリーダー・ランチ「脂肪の質賞」を受賞

石垣市で黒毛和種の繁殖・肥育一貫(一部導入)経営を行っている(有)ヤイマ・ブリーダー・ランチが、第48回沖縄県畜産共進会枝肉部門で、脂肪の質賞を受賞した。脂肪の質賞は、前回大会から新設された賞である。脂肪の質を評価するオレイン酸や一価不飽和脂肪酸(MUFA)の値は、全国和牛能力共進会においても、その評価群が新たに設定されるほど重要視されてきている。当受賞枝肉は、オレイン酸含有率57.1%、MUFA含有率63.6%と高い値で、今大会の平均オレイン酸含有率50.0%、平均MUFA含有率56.8%を上回り、脂肪の質が良好な枝肉と評価された。



(10) 第48回沖縄県畜産共進会種畜部門 若雌第2類 (農・株) 幸和畜産が県知事賞を受賞

石垣市で繁殖経営を行っている(農・株)幸和畜産が、第48回沖縄県畜産共進会種畜部門若雌第2類で、優秀1席および県知事賞を受賞した。当該牛は県有種雄牛「美百合」産子で、毛質や乳微などの種牛性が高く評価された。



(11) 令和4年度第34回JA石垣牛肥育部会枝肉共励会 (有)サンニ産業が最優秀賞受賞

4月22日に、八重山食肉センターにて第33回JA石垣牛肥育部会枝肉共励会が開催され、(有)サンニ産業が最優秀賞を受賞した。当受賞枝肉は、脂肪交雑、枝肉重量、ロース芯面積、バラの厚さ、歩留基準値に優れた枝肉と評価され、枝肉単価3,700円で取引された。

褒賞	生産者	性別	血統			出荷月齢	ロース芯	バラ厚	皮下脂肪	歩留基準	BMS	格付	枝肉重量
			父	母の父	祖母の父								
最優秀賞	(有)サンニ産業	去	忠茂平	美国桜	百合茂	34	85	10.3	2.3	78	12	A5	611.0
優秀賞	とー家ファーム	去	福福波	百合茂	安福久	30	75	8.0	1.2	78	12	A5	474.0
優良賞	JAおきなわ八重山肥育センター	去	福之姫	忠富士	糸茂勝	29	80	8.4	2.1	77	12	A5	529.5



(12) 令和4年度第35回JA石垣牛肥育部会枝肉共励会 ヤイマ・ブリーダー・ランチが最優秀賞受賞

11月26日に、八重山食肉センターにて第35回JA石垣牛肥育部会枝肉共励会が開催され、ヤイマ・ブリーダー・ランチが最優秀賞を受賞した。当受賞枝肉は、脂肪交雑と枝肉重量、ロース芯面積のバランスが高い水準で優れていることが高く評価され、枝肉単価3,800円で取引された。

新たに設けられた「脂肪質賞」は、JAおきなわ八重山肥育センターが県有種雄牛「勝群星」産子で受賞した。当受賞枝肉は、オレイン酸含有率56.9%、MUFA含有率63.4%と高い値が評価された。

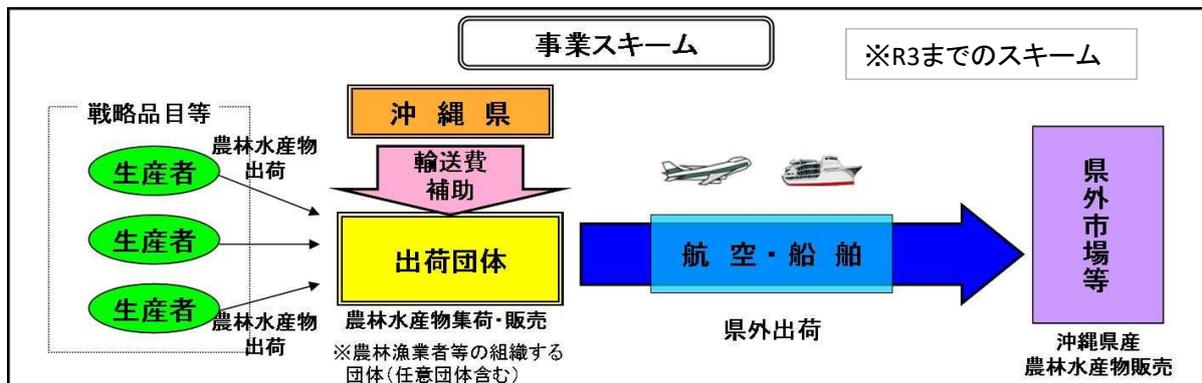
褒賞	生産者	性別	血統			出荷月齢	ロース芯	バラ厚	皮下脂肪	歩留基準	BMS	格付	枝肉重量	MUFA
			父	母の父	祖母の父									
最優秀賞	ヤイマ・ブリーダー・ランチ(名蔵)	去	福之姫	美津照重	百合茂	29	81	9.0	3.4	76	12	A5	567.0	57.8
優秀賞	ヤイマ・ブリーダー・ランチ(新川)	去	愛之国	北福波	安福久	28	74	10.4	2.7	77	12	A5	530.5	54
優良賞	シロウ牧場	去	福福波	安晴姫	北国7の8	33	77	8.7	2.0	77	12	A5	542.5	60.5
脂肪質賞	JAおきなわ八重山肥育センター	去	勝群星	愛日向	美穂国	30	77	8.3	2.3	76	10	A5	532.5	63.4



3 新たな事業展開

(1) 農林水産物流通条件不利性解消事業

沖縄県の課題とされている、遠隔地であることによる流通条件不利性を解消するため、沖縄県では、出荷団体が県産農林水産物を本土出荷する際に要する輸送費の一部を補助する事業を実施しています。(沖縄振興特別推進交付金を活用)



この事業は、出荷団体が県産農林水産物（戦略品目等）を本土に出荷する際、鹿児島県並の負担となるよう輸送費の一部を補助するもので、輸送費負担が軽減されることによって、本土他産地と同等の条件下での市場競争が可能となり、本土出荷時期の拡大や出荷量の増加が期待されています。

令和3年度の実績は、沖縄県全体で出荷量59,370トン、補助額24億6,260万円、八重山地区では出荷量5,019トン、補助額3億4,217万円となっています。

なお、令和4年度からは、県外産地との市場競争力を確保するため、輸送コストの低減対策を図りつつ、生産地から消費地までのコールドチェーン体制の確立など総合的な流通の合理化に取り組んでいます。

令和3年度事業実績(出荷量及び補助額) (単位:トン、千円)

区分	八重山地区		沖縄県全体	
	出荷量(トン)	補助額(千円)	出荷量(トン)	補助額(千円)
野菜	643	56,931	12,646	719,731
花き	28	3,876	15,103	794,149
果樹	1,875	176,965	2,980	246,168
水産物	2,445	102,445	20,202	530,137
畜産物	28	1,952	8,384	166,825
その他	0	0	55	5,593
合計	5,019	342,169	59,370	2,462,603

補助対象品目

区分	品目			
野菜	さやいんげん	ゴーヤー	レタス	ピーマン
	スイートコーン	ばれいしょ	さといも	島らっきょう
	オクラ	かぼちゃ	とうがん	トマト
	すいか	メロン	ニンジン	きゅうり
花き	輪きく	小ぎく	スプレーギク	観葉植物
	洋ラン	トルコギキョウ	ストレリチア	切り葉
	ヘリコニア	レッドジンジャー	ソリダコ	
	マンゴー	パパイヤ		
果樹	パッションフルーツ	シークワーサー	中晩柑類(タンカン、天草、南香)	
	アセローラ	びわ	パインアップル	
	スターフルーツ	ドラゴンフルーツ	アテモヤ	
			温州みかん	
かんしょ	かんしょ			
薬用作物	薬用作物類			
木材	リュウキュウマツ等県産材			
特用林産物	きのこ			
畜産物	肉用牛	豚		
水産物	クルマエビ	モズク	スギ	
	ヤイトハタ	海ぶどう(クビレズタ)	アーサ(ヒトエグサ)	
	マグロ類	ソデイカ	カジキ類	

令和3年度補助額《主な基準額》

【航空】

地域	品目	補助単価
本島	花き・水産物	80円/kg以内
	野菜・果実	60円/kg以内
宮古	花き・水産物	140円/kg以内
	野菜・果実	115円/kg以内
石垣	花き・水産物	145円/kg以内
	野菜・果実	120円/kg以内

【船舶】

地域	品目	補助単価
本島	花き	35円/kg以内
	花き以外	20円/kg以内
	モズク	10円/kg以内
宮古・石垣	全品目(※)	35円/kg以内
	モズク	15円/kg以内

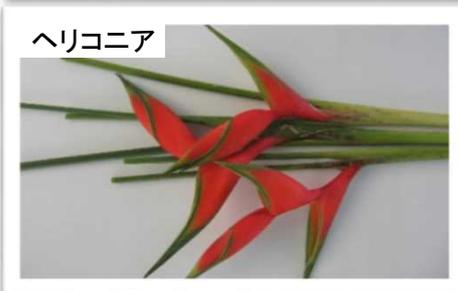
(注)輸送品目のうち、「モズク」は除く

4 その他紹介

(1) 拠点産地認定品目

令和5年3月現在

作物	対象品目	認定市町村	認定年月日
野菜	オクラ	石垣市	平成18年10月17日
	カボチャ	竹富町	平成26年3月26日
花き	ヘリコニア	石垣市	平成19年6月21日
	ジンジャー類	石垣市	平成19年6月21日
果樹	パインアップル (生食用)	石垣市	平成19年8月10日
		竹富町	平成20年3月27日
肉用牛	肉用牛(子牛)	石垣市	平成20年9月24日
	肉用牛(肥育)	石垣市	平成20年9月24日
	肉用牛(子牛)	竹富町	令和2年2月13日
かんしょ	紅いも	石垣市	平成29年5月9日
薬用作物	ボタンボウフウ	与那国町	平成18年3月30日



(2) 沖縄県農地中間管理機構の概要について

I. 農地中間管理機構とは

○農地中間管理機構とは、農地の出し手と受け手(担い手)の仲介役として、受け手(担い手)への農地集積・集約化に取り組む「信頼できる農地の中間的受け皿」として「農地中間管理事業」を行う機関です。

○沖縄県では、公益財団法人沖縄県農業振興公社が沖縄県知事より農地中間管理機構として指定を受け、平成26年4月1日より「農地中間管理事業」を実施しています。

II. 農地中間管理事業の概要

○農地中間管理事業とは、「人・農地プラン」と一体的に推進し、認定農業者、認定新規就農者などの地域の中心的担い手へ農地集積・集約化を図り、農地の有効利用や農業経営の効率化を進める事業として、以下のことを実施します。

- ①出し手から農地を借受け、集約化して受けて(担い手)へ貸付け
- ②機構が預かっている農地の管理(最長で2年間)
- ③必要と判断される場合の農地の利用条件整備
- ④農地集積・集約のために必要とされる農地の売買

○受け手への農地の貸付けについては、借受希望農地のある市町村窓口や農業振興公社で、公募により随時募集を行っています。

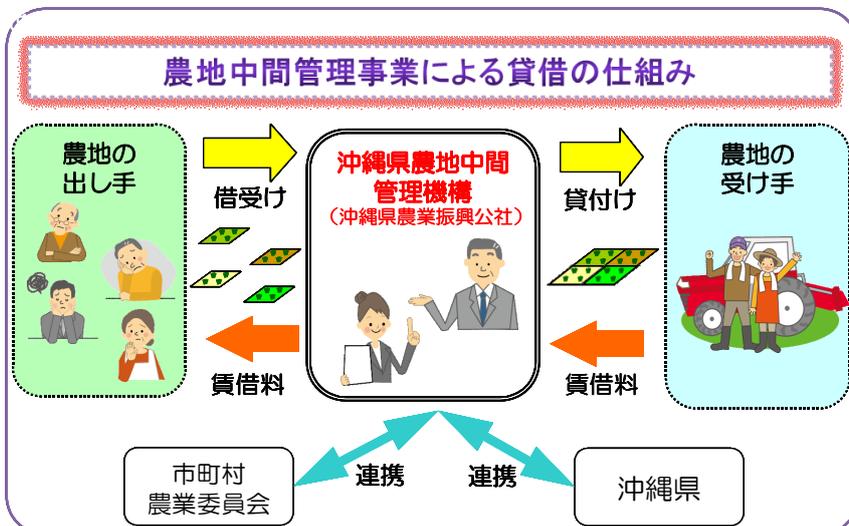
III. 農地中間管理事業を活用するメリット

【農地の出し手のメリット】

- ①賃料の徴収・支払いは、農地中間管理機構が責任を持って行います。
- ②農地借入れ契約期間の満了時には、農地所有者に確実に返ってきます。
- ③借入れた農地は、借り手が見つかるまで、最長で2年間適切に管理し、その間の出し手への賃料は、機構が支払います。
- ④出し手が農地中間管理機構へ、農地を10年以上貸し付けるなど一定の要件を満たせば、賃借料とは別に「機構集積協力金」の交付を受けられる場合があります。

【農地の受け手(担い手)のメリット】

- ①農地を集積・集約化し、できるだけ、まとまった農地を受け手(担い手)へ貸し付けるので、農業経営の効率化が図られます。
- ②農地借入れ期間の満了時まで、安心して耕作することができます。
- ③機構は、出し手と受け手(担い手)との仲介役として、複数の出し手との個別調整や事務手続き等を行うので、煩雑な手続きが解消されます。



(3) 国営土地改良事業「石垣島地区」

事業目的

本地区の基幹的農業水利施設は前歴事業等により整備されたが、事業完了以降、空港等の整備による農地面積の減少や受益地域への編入を希望する農家が存在するなど水需要に変化が生じている。

また、施設造成から相当の年月が推移しており、施設の性能低下が生じ、施設の適正な維持管理に多大な費用と労力を要している。このため、前歴事業の改修を行うとともに、新規受益を編入した既存水源（底原ダム・真栄里ダム・石垣ダム・名蔵ダム・大浦ダム）の総合運用による再編整備を行い、地域特性を生かした農業生産性の維持・向上を図り、農業経営の安定に資する。

概要

- ・事業名：国営かんがい排水事業
- ・地区名：石垣島地区
- ・関係市町村：沖縄県石垣市
- ・事業工期：平成26年度～令和10年度
- ・受益面積：4338 ha
- ・主要工事：ダム(改修) 5ヶ所
頭首工(改修) 3ヶ所
揚水機場(改修・新設) 6ヶ所
用水路(新設) 50km
用水路(改修) 55km

①地区内の営農：栽培作物の多様化



日本一早い田植え
(超早場米:2月)



施設野菜：熱帯果樹の展開



石垣牛ブランドを支える
牧草地の拡大

②老朽化施設の改修：施設の維持管理にかかる負担軽減



③新たに石垣島・西部地域へ農業用水を供給：干ばつの解消、高収益作物



水源が無い
ため、干ばつ
時は散水車
による対策
等が行われて
きた。



農業用水供給後の営農変化への期待



さとうきびのスプリンクラー散水、施設野菜等の導入が容易になる

国営石垣島地区 事業概要イメージ図

できた みる ながみ ぼがすまかい ち くる
 ~ 太陽ぬ恵み 世界報水 我島美しや 結い心 ~



施設凡例	
	配水池
	揚水機場
	取水堰
	配水系水路
	送水系水路
	於茂登導水路

農業用水供給の営農変化への期待